

今年度の気象は平均気温が全体的に高く、年平均では 1.8℃ 平年より高くなりました。降水量は全体的に平年より多く、日照時間は全体的に平年より多くなりました。

ミカンの着色は「興津早生」では平年よりかなり遅くなり、糖度は平年並み～平年より低く、酸度は「日南 1 号」が高く、それ以外の品種で低い傾向でした。

## 令和 6 年のまとめ

### 1 令和 6 年の気象

令和 6 年 1 月～12 月の月別気象を表 1 に示した。月平均気温は、1、2、4、7～10 月が平年より高く推移し、それ以外の月は平年並みであった。特に 10 月は平年に比べ +2.7℃ 高く、前年に比べ +2.5℃ 高く、夜温も高かった。1 年間の平均気温は 18.0℃ で平年より 1.8℃ 高く、前年並みであった。降水量は 2～6、8 月で平年より多く、11 月で平年並み、その他の月では平年より少なかった。1 年間の合計は 2,009mm で平年の 109%、前年の 125% で、降水量の多い年であった。日照時間は 2、4 月で平年より少なく、その他の月は平年並みか平年より多かった。1 年間の合計は 2,193 時間で平年の 110%、前年 93% であった。

表 1 令和 6 年の気象（館山アメダス）

年	月	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (時間)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
令和 6	1	8.6	6.4	6.3	29	86	47	197	177	162
	2	9.1	7.0	8.4	106	82	130	133	155	151
	3	10.5	10.1	13.2	258	161	148	185	165	170
	4	16.6	14.5	16.5	184	156	135	133	179	207
	5	19.4	18.5	19.0	228	153	145	179	185	206
	6	22.6	21.5	22.7	356	212	220	190	135	129
	7	27.9	25.2	26.8	103	179	49	252	179	274
	8	28.7	26.7	28.5	238	103	113	237	216	279
	9	26.7	23.7	26.7	141	222	298	196	153	192
	10	21.3	18.6	18.8	224	258	200	128	137	202
	11	15.0	13.7	15.5	140	144	84	139	147	176
	12	9.6	8.9	10.4	5	91	46	223	164	198
平均/合計		18.0	16.2	17.7	2,009	1,846	1,613	2,193	1,991	2,345

注) 平年：1991～2020 年の 30 年間の平均値

### 2 令和 6 年の樹及び果実の生育

暖地園芸研究所における発芽期は、「日南 1 号」、普通温州が 4 月 1 日、「興津早生」が 4 月 2 日であり、平年と比較すると「日南 1 号」で平年並み、「興津早生」で 5 日、普通温州で 11 日早かった。特に発芽が早かった前年の比較では、「日南 1 号」で 8 日、「興津早生」で 9 日、普通温州で 5 日遅くなった。1、2 月の気温は平年及び前年に比べ高かったが、3 月の気温は平年並みであり、前年ほどの発芽期の前進は見られなかった。

開花盛期は、「日南 1 号」が 5 月 5 日、「興津早生」が 5 月 4 日、普通温州は 5 月 7 日であり、平年と比較すると「日南 1 号」で 2 日、「興津早生」で 7 日、普通温州

で10日早かった。前年より4～5日遅かった。発芽期、開花期とも品種の早晚における差は少なかった。

本年の着花量は、暖地園研では早生温州ではやや少ない～平年並、普通温州ではばらつきがみられるものの全体的には多かった。

調査3園地（表3－注2）の収穫調査時の横径及び縦径は、全ての品種で平年及び前年並みであった。一果重は「日南1号」は平年並みで、前年より重かった。「興津早生」は平年より重く、前年並みであった。「大津4号」は平年及び前年並みであった。「青島温州」は平年及び前年より重かった。

着色程度は「日南1号」で平年並み、前年より遅かった。「興津早生」は平年及び前年よりかなり遅く、「大津4号」は平年及び前年並みであった。「青島温州」は平年及び前年より遅かった。糖度は「興津早生」は平年と比べてやや低く、それ以外の品種は平年並みであった。前年と比較すると、全ての品種で低い傾向であった。酸度は「日南1号」が平年及び前年より高く、「興津早生」が平年より低く前年よりやや高く、「大津4号」が平年及び前年よりやや低く、「青島温州」が平年及び前年並みであった。果肉歩合は4品種ともにほぼ平年及び前年並みであった。

表2 令和6年の発芽期及び開花期（暖地園芸研究所）

品種	発芽期（月・日）			開花期（月・日）								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	4.1	4.1	3.24	5.1	5.2	4.25	5.5	5.7	5.1	5.10	5.12	5.5
興津早生	4.2	4.7	3.24	4.26	5.7	4.24	5.4	5.11	4.29	5.10	5.17	5.6
普通温州	4.1	4.12	3.27	5.2	5.11	4.29	5.7	5.17	5.3	5.13	5.22	5.9

注1) 平年：直近過去30年間の平均値（「日南1号」は平成27年～令和5年の平均値）

2) 普通温州：「大津4号」と「青島温州」の平均値

表3 令和6年の果実品質（調査3園地、収穫時）

品 種	横 径(cm)			縦 径(cm)			一果重(g)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	6.7	6.7	6.4	5.0	5.0	4.7	127	125	109
興津早生	6.6	6.5	6.8	5.1	5.0	5.2	128	115	135
大津4号	7.2	7.5	7.4	4.7	5.0	4.7	142	147	148
青島温州	7.5	7.4	7.4	5.0	5.0	4.7	160	143	146

  

品 種	着色程度 (0～10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	3.9	3.5	4.7	8.1	8.5	9.6	1.24	1.03	0.90	6.9	8.7	11.2	85.3	85.5	85.8
興津早生	4.7	7.4	8.6	8.9	9.5	9.8	0.89	1.03	0.79	10.9	9.7	13.1	82.9	82.0	82.6
大津4号	7.8	8.4	8.7	10.0	10.2	10.9	0.85	0.92	0.98	12.3	11.4	11.6	77.9	75.9	76.6
青島温州	6.8	7.9	7.8	9.3	9.6	10.1	0.89	0.92	0.84	11.3	10.6	12.5	78.2	74.8	76.7

注1) 平年：直近30年間の平均値（「日南1号」は平成28～令和5年の平均値）

2) 南房総市三芳地区、同千倉地区及び暖地園研（館山市）の3園地の平均値（「日南1号」は暖地園研における調査のみ）

3) 甘味比＝糖度／酸度

4) 果肉歩合＝（果肉重／1果重）×100

5) 収穫日は「日南1号」：10月1日「興津早生」：11月1日  
「大津4号」及び「青島温州」：12月2日

### 3 病害虫、生理障害の発生

暖地園芸研究所では、4～5月は気温が平年より高く、降水量も平年より多かったため、そうか病が一部圃場で見られた。ミカンハダニ、サビダニは高温少雨だった前年に比べると、発生は少なかった。黒点病は前年に比べると発生したが、平年並みであった。

果樹カメムシ類は、春から樹上で散見された。夏以降発生はややおさまったが、圃場環境によっては部分的に発生が見られた。近年は秋季以降の気温が高い傾向にあるため、殺虫剤をあらかじめ準備しておく。

### 4 1月以降の栽培管理

#### (1) 防寒被覆

寒さに弱い幼木や風当たりの強い場所で重点的に行う。低地では樹冠上方を、風当たりの強い場所では樹の全体を被覆資材で覆う。コモ、稲わら、寒冷紗、ビニル等が保温の目的で用いられる。

#### (2) 土づくり・施肥

高品質のミカンを生産するため、土壌診断などで定期的に土壌の物理性及び化学性を把握し、2～3月に堆肥等の有機物を、3月上旬に春肥を施用する。

#### (3) 縮伐・間伐・せん定

密植園ではせん定の前に、縮伐や間伐を実施する。これにより、作業性が向上し、高品質果実生産につながる樹形への整枝ができるようになる。

せん定はノコギリを用いた大きな枝のせん除から始め、その後、せん定鋏を用いた比較的細い枝の間引き、切り返しの順で行うと効率が良い。強せん定は徒長した枝が発生しやすく、隔年結果を助長するため、あくまで弱せん定が基本である。樹によってはせん定を行わないか、大枝の除去のみで良い場合も多く、切り過ぎないように注意する。

#### (4) 病害虫の防除

せん定時には黒点病やそうか病、かいよう病の防除のため、枯れ枝や罹病枝葉を除去し、園外で処分し、園内の菌密度を下げる。そうか病は発芽した芽が1 cm程度に伸びた発芽期以降（4月）及び落花直後（5月）に薬剤防除を行う。春先の気温で生育が早まることもあるため、適期を逃さないように注意する。かいよう病の防除は発芽前と5月中旬に行う。銅水和剤の散布は、農薬のラベルをよく読み、他の農薬との散布時期の調整を行う。

カイガラムシ類やダニ類の防除のため、せん定した後、発芽前までにマシン油乳剤の散布を行う。ただし、樹勢の弱い樹への散布は避ける。また、厳冬期は落葉する危険があるため散布を避ける。

防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の発行元 》 千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>